随想

蒲戸半島の海岸を歩く

大分探勝アルコウ会に加わって

羽柴　弘

このコースは、実は昨年五月わが史談会が試みた、印象もまだ鮮かなところである。それに大分からはるばる立川先生が参加下さっている。

去る六月七日、こんどは立川先生の率いる大分のアルコウ会が、バス二台を連らねて来られる。高木会長と私はお、返しのような気もちで御案内方々お伴を――という ことで参加した。

バスの故障で時間が下がり、風光明媚な浅海井海岸に着いたのは十一時前、地元の山本会員が待ちうけていて、すぐ鵜嶽の龍へと人ずくで、ご年配の方々が多く、そして大半は女性である。亜熱帯樹あこうの老樹や、その下の龍嶽孫平という力士の墓などに興味をもって熱心に見られる。何人かはしきりにメモをとっている。

鵜嶽の龍は水量もかなり多く、この海岸近くの岩壁に思いがけない見事な龍の姿、そそり立っている絶壁に、しばしたまゆいを奪われたかたちである。

詩人北條公子は「飛孤の山色新雲の辺、下れば層崖有りて瀑市懸る、自から是れ香爐千仞の水、輝毫好しく作らん謫仙の篇」と詠じ、又中島子玉も秋月楠門もここに遊んで詩をのこし、日田の碩学広瀬淡窓も少年の頃へ恐らくその師松下筑窓につれられて、ここを訪ねている。この文学、この歴史は佐伯界隈では外にないであろう。

海岸に出れば藻刈の風景が我々の眼をとらえる。名づけて豊後二見が浦という。ていねいに注連縄までわたしているが、本場伊勢の二見が浦の夫婦岩にくらべて格段にすぐれている。

津井では県の水産試験場に立寄って見学、既に一時近くになっていたので上の津井公園にあがって、程よい葉桜の陰とそれぞれ求めて昼食。のどが渇いていたところに上浦町からの全員にジュースの接待は、まことにありがたかった。

昼休みもそこそこ、夏なれば海水浴場となる瀬会の浜を右下に見て、バスは長田まで海岸を走る。途中の景観もよい。佐伯湾は今日は波もおだやか、大入島はかすんで見える。

長田から先はすべて徒歩である。きすがは八十回を越すキャリアをもつアルコウ会の面々、おばさん達まで足どりも軽くサッサと歩く。大体今日は蒲戸から大浜を経て農免道路を落ノ浦まで往復し、足の達者な連中は蒲戸半島の脊梁部を歩いて網代まで出る予定であったが、時間がバスの故障で下りすぎているので、大浜の上、保戸島の見えるところまでで打ち切った。

私はわつくり歩いていたらいつの間にか後になり、や

つと蒲戸部落まで。はその上の蛭子神社などにまいって気がついたが近くの岸に立ちならんでいた松の老木が、一本も姿を止めていない。去年はあったのに、惜しいことをしたものである。

蒲戸海岸の風光のポイントは三ツ石の岩であろう。見る方向によって変化は限りなく、恐らく船でまわれば大小二十数個の奇岩はシンフォニーでも聴くかの如く、眼を楽しませてくれるであろう。

蒲戸半島の突端部は思いきり伸んで、突如として海に没している。鶴見湾と共に双の眺で佐伯湾を抱いている、その左手中指の先に当るところである。

豊後風土記にある「景行天皇の御船この門に泊てしに、海底に海藻多に生いて長く美しかりき。天皇勅して最勝の海藻を取れとのすなはちとりて御物に進らしめ給ふ。よりて最勝海藻門といふ。今穂門というは訛れるなり」云々（一部抄訳）は、この佐伯を指すらしいが、この蒲戸附近一帯を最勝海浦と書いてニイナメウラと呼ぶのも面白い。

この日は潮のよい日曜とあって、家族づれ又は職場の若い連中が魚釣りや磯遊びに来ていて、自家用車があちこち三十台ばかり駐車してあった。健康な、そしてすばらしい海の景観ともろもろの海の獲物、それが蒲戸半島の到るところにある。海水浴の日帰りもよし、蒲戸や大浜一帯の臨海キャンプもよし、そろそろシーズンである。

再びバスに帰ったアルコウ会の連中は、津井から回道二一七号線で津井峠を越し、津久見・白杵を経て御所峠から坂の市へ。高木会長も私も はじめてのコースで、いくつかの峠を越しつゝ右左の窓の彼方に山並みや海岸の変化に富んだ風光を満喫した。然し大分まで同行するには時間がかゝりすぎているので、坂の市の駅前でお別れして汽車で帰った。

採勝アルコー会は、このように毎月バスを連ねてよく歩く。そして郷健ごとに体験と知識を積み累ねている。すばらしいことである。真似の出来ないことである。

立川先生の御自愛による御健康をいのり、日出度く百回までつづくことを期待したいと思う。

（以上）

史談会のいろいろ変態し、その外……

○大分県地方史研究会 総会 〃 五月二十四日 大分市林業会館
佐伯史談会の会員は九名で二十名近く、賛助会員の方まで数えると三十名を越すであろう。高木、羽柴出席「大分県地方史」五十号一括受けとり、配本。会費 年千百円も集めつゝある。

○文化財パトロール 〃 六月十一日 佐伯教育事務所、佐伯市教委、警察署は一丸になって、南部佐伯市全域に亘って文化財がどうなっているかを査察された由。

○佐伯史談会 評議員会 〃 五月二十三日午後 高木会長宅で。
三の丸御殿の移築復元、住吉会館（仮称）建設について賛助寄付のことと協議。それに基いて全会員（顧問、普通会員、賛助会員）に呼びかけることを決定、本号に同封して募金を同級となった。会員諸氏は趣旨御諒解の上でどうぞ。

○辰馬知神社参拝バス旅行 〃 五月三十一日 生憎くの雨で中止。
今秋九月改めてお知らせ申上げを募る予定

○ふるさとの文化財 〃 大分合同新聞に連載中、
六月八日（月曜）佐伯市㊤
〃 十五日（〃）〃 ㊦
〃 廿二日（〃）南海部郡㊤弥生町とつづく
切抜かれて研究の資料に指針に用いられるようにおすすめします。